

米国の授業における AI 活用に関わる AI ガイドラインから見た授業構造

2026/4/14

数理・データ科学・人工知能教育研究センター

駒水 孝裕

参考とした米国大学のガイドライン一覧

- ノースカロライナ州立大学 (NC State University)
 - <https://ai.ncsu.edu/ai-for-students/>
- イーストカロライナ大学 (East Carolina University: ECU)
 - <https://ai.ecu.edu/using-generative-ai-at-ecu/>
- マサチューセッツ工科大学 (MIT)
 - <https://ist.mit.edu/ai-guidance>
- カリフォルニア大学サンディエゴ校 (UC San Diego)
 - <https://privacy.ucsd.edu/ai-guidelines/index.html>
- ハーバード大学 (Harvard University)
 - <https://www.huit.harvard.edu/ai/guidelines>
- ボイシ州立大学 (Boise State University)
 - <https://www.boisestate.edu/genai/>
- マックマスター大学 (McMaster University)
 - <https://provost.mcmaster.ca/generative-artificial-intelligence-2/generative-ai-for-staff/provisional-guidelines-on-the-use-of-generative-ai-in-operational-excellence/>

全体的な傾向

- **基本姿勢：禁止ではなく「責任ある探求」**：生成AIを頭ごなしに禁止せず、生産性向上やイノベーションの機会として歓迎しつつ、倫理や学問的誠実性を守る利用を推奨しています。
- **データ保護：機密情報の入力厳禁と「承認済みツール」**：学生の個人情報や未公開の研究データなどの機密情報を、一般公開されている無料AIに入力することは固く禁じられています。代わりに、大学がデータ保護契約を結んだ安全なツール（Microsoft Copilot等）の利用が推奨されます。
- **出力の検証：最終責任は「人間（利用者）」**：AIによる不正確な情報（ハルシネーション）や偏見のリスクを踏まえ、情報の正確性を批判的に検証する最終責任は常に利用者にあります。学生には、高度なツールに頼る前に「強固な基礎知識」を習得することが優先されます。
- **透明性と現場ルール：利用の開示と教員の裁量**：AIを利用して作成した成果物については、その利用事実を透明性をもって開示する義務があります。授業や課題におけるAIの許可範囲は一律ではなく、教員が個別に設定しシラバス等で明示する方針がとられています。
- **AIアシスタント（録音・要約）の慎重な運用**：オンライン会議や授業での自動記録・要約ツールの利用は、参加者への事前通知と「拒否権」の保障が必須であり、デリケートな話題の場では禁止されます。ただし、障害のある学生に対する合理的配慮としての利用は明確に保護されています。

ガイドラインの基本構成

1. 導入・背景および基本原則 (Introduction / Overview / Principles)

- 生成AIがもたらす革新性や生産性向上の機会を歓迎しつつ、倫理的、法的、および学術的な課題（リスク）を考慮して活用するという方針が宣言されます。

2. データの分類と保護要件 (Data Security and Privacy)

- 機密情報の入力禁止: 個人情報、学生の記録、医療情報、未公開の研究データなどを、一般公開されているAIツール（無料版など）に入力することは固く禁じられています。

3. 大学におけるAIツールの安全な利用環境 (Approved Tools and Procurement)

- 承認済みツールの明示: データ保護やプライバシーに関するライセンス契約を大学が締結している公式ツール（Microsoft Copilotなど）が明示され、その使用が推奨されます。

4. AI生成物を取り扱う上での遵守事項 (Verification, Responsibility, and Transparency)

- 検証の義務: AIが生成する情報には、不正確なもの（ハルシネーション）、偏見（バイアス）、第三者の著作権を含む可能性があるため、公開・共有する前に必ず利用者が内容を批判的に評価し、検証する責任があります。

5. 特定の利用シーンに関するルール (Specific Application Rules)

- 学業・授業での利用: 教員がシラバス等でAI利用ポリシーを明確にすることや、学生はそれに従う（不明な場合は教員に確認する）ことが求められます。

6. 付録およびサポートリソース (Appendices and Resources)

- ガイドラインを実務に落とし込むための具体的なツールや参考資料

ガイドラインによる推奨行動 (1/5)

1. 能動的な学習（アクティブラーニング）への活用

- ノースカロライナ州立大学 (NC State): 要約を受動的に読むだけでなく、生成AI（LLM）を用いて練習問題を作成して思い出す訓練（検索練習）を行うことや、議論やディベートのきっかけとして活用するなど、**能動的な学習（アクティブラーニング）に役立てることを推奨**しています。また、AIを主要な教材の「代替」ではなく、あくまで「学習補助」として使用することを求めています。

ガイドラインによる推奨行動 (2/5)

2. ツールの積極的な試行と「特性（強み・弱み）」の把握

- ノースカロライナ州立大学 (NC State): 学業ポリシーや手順を守りながらAIツールを徹底的に試すこと、ハルシネーションなどの弱点を理解するためにまずは「よく知っている分野」で試すこと、そしてタスクに最適なものを見つけるために多様なモデルを探索することを学生に推奨しています。

ガイドラインによる推奨行動 (3/5)

3. 教員への積極的な確認とコミュニケーション

- ノースカロライナ州立大学 (NC State): コースや課題ごとにAI利用ポリシーは異なるため、利用について少しでも不明な点がある場合は、教員に直接確認するよう呼びかけています。
- ハーバード大学: 授業における生成AIの許可方針について、学生側からも必要に応じて教員に方針の明確化を求めるよう推奨しています。

ガイドラインによる推奨行動 (4/5)

4. プライバシーとデータ保護に関する自衛・管理行動

- カリフォルニア大学サンディエゴ校 (UC San Diego): 授業の記録やAI機能が有効になっている環境では、学生は自分自身のデリケートな情報（機密情報）について話さないよう助言されています。また、障害への配慮として学生が授業の記録を許可された場合、その配慮に不要となった出力データは直ちに削除する責任があると定めています。
- イーストカロライナ大学 (ECU): 機密データや個人データを公開されているAIツールと絶対に共有しないことをベストプラクティスとして推奨しています。
- ハーバード大学: 学生の記録などの機密データを、一般に公開されている生成AIツールに入力しないよう定めています。

ガイドラインによる推奨行動 (5/5)

5. 倫理的配慮とコンピテンシー（能力）の向上

- ボイシ州立大学: 学生が生成AIに関するコンピテンシー（能力）を開発し、それが「学生としての成功」にどう関わるかを理解するよう、学生専用ページで推奨・支援しています。
- イーストカロライナ大学 (ECU): 著作権や知的財産を尊重すること、またデータに潜在的な偏見（バイアス）がないかを確認し、差別的なコンテンツを避けるといった倫理的コンプライアンスを求めています。
- ハーバード大学: AI生成コンテンツには不正確な情報や著作権侵害のリスクがあるため、公開や共有を行う前に内容を必ずレビュー（検証）する責任があると定めています。

ガイドラインによる制限 (1/4)

1. 課題や授業におけるAI利用の直接的な制限

- ノースカロライナ州立大学 (NC State): 多くのコースでは高度なツールを使う前に基礎知識を身につけることが優先されるため、**課題でのAI使用がコースのポリシーによって厳しく制限される場合がある**と明記しています。また、AIは主要な教材や信頼できる情報源の「代替」ではなく、あくまで「補助」として使用すべきであると指導しています。

ガイドラインによる**制限** (2/4)

2. 授業の記録やAIアシスタントに関する権限の制限

- カリフォルニア大学サンディエゴ校 (UC San Diego): 認可された障害への配慮がある場合等を除き、授業や教育ミーティングを記録する権限は原則として教員（ホスト）にのみあるとしており、他の参加者による記録を認めていません。また、障害への配慮として学生が記録した場合でも、出力データの配布や目的外使用を禁じ、不要になったデータは直ちに削除する義務を課しています。さらに、AI機能が有効になっている授業環境では、学生自身に関するデリケートな情報を話さないよう注意喚起しています。

ガイドラインによる制限 (3/4)

3. データの入力と使用ツールに関する制限：学生の記録（成績など）を含む機密データを一般公開のAIツールに入力することへの制限や、大学非公認ツールの利用抑制については、複数の大学が規定しています。
- ハーバード大学: 公開されている生成AIツールに、学生の記録などの機密情報（レベル2以上）を入力してはならないと定めています。
 - マサチューセッツ工科大学 (MIT): 学生の記録などの情報を生成AIツールに入力することは不適切であると定めています。 さらに、大学のライセンス契約対象ではない一般公開の生成AIツールを教育・研究活動に使用すること自体を推奨していません。
 - イーストカロライナ大学 (ECU): 学生の記録を「レベル3（機密/センシティブ）」に分類し、公開されているAIツールと共有しないよう定めています。
 - マックマスター大学: セキュリティやプライバシーの評価なしに、個人情報を生成AIツールと共有することを禁じています。

ガイドラインによる制限 (4/4)

4. 機能的限界による依存の抑制

- ノースカロライナ州立大学 (NC State): AIには学術的な情報源が不足していることや、真の理解力（批判的評価能力）の欠如、架空の情報を生成するハルシネーションのリスクがあることを挙げ、**検索ツールや要約ツールとして無批判に依存しないよう学生に求めています。**